

港区立御田小学校
令和 3 年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査の結果を踏まえた課題

国語	「書くこと」における、文章を構成する力や、記述する際に、適切な言葉を使ったり選んだりする力に、課題が見られた。日常的に読書に親しんだり、様々なジャンルの読み物に触れたりする機会が減っていることが、語彙力の課題につながっていると考えられる。また、「読むこと」においては、叙述や描写を基に捉える力に課題が見られた。特に、物語文において登場人物の心情や場面の様子を読み取り、自分の生き方を見つめ直したり、自分なりの考えをもったりすることが十分ではない。
社会	「主体的に取り組む態度」が、児童が興味・関心が高学年になるにつれて低くなっている。「思考・判断・表現」の正答率が低く、資料から読み取った情報と社会事象や人々の願いを関連付けて説明することが苦手である。また、自分の考えを短い言葉で表現する機会が少ないことが課題に挙げられる。
算数	2、4、6 学年で「主体的に取り組む態度」が区平均を下回った。導入の工夫、問題に対するめあての設定など、主体的な学習活動が少ないことが課題に挙げられる。また、4、6 学年「思考・判断・表現」が区平均を下回った。問題の解き方を自分で考えたり、根拠をもって伝え合ったりする機会が少ない。
理科	「植物の育ち方」の単元の正答率が低かった。植物の観察活動が充実していないことや、復習する機会が少ないと考えられる。「思考・判断・能力」が区平均を下回った。実験方法を自分で考えたり、実験の結果を自分の言葉でまとめたり、伝え合ったりする機会が少ないことが課題に挙げられる。また、実験器具を扱う活動が少なく、正しい器具の扱い方が身に付いていない。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつよさを認識するために「書くこと」の学習では、書きたくなるような題材を工夫したり、相手意識を明確にして伝えたいくなるような場を設定したりすることで書く意識を高め、書く活動を充実させて言語能力を高める。 ・日常的に様々な文章に親しむ機会を増やせるよう、学校図書館地域の図書館と連携して読書や調べ学習を充実させたり、他教科と関連付けた学習を取り入れたりして、「書くこと」における表現力や、伝え合う力を育成する。また、「読むこと」と「書くこと」を連携させ、思考力・想像力も養っていけるようにする。 ・ICT 機器や視覚的な教材・教具を使用し、分かりやすい学習活動を実施することで、児童の言語に対する興味・関心を高め、主体的な学習ができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<p>社会的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力</p> <p>(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取った情報と、自分の考えを関連付けて表現する力を伸ばすために、児童が考えを伝え合う学習では、具体的な例を児童に示して、ゴールへの思考の流れがスムーズに行えるようにする。また、具体的な知識を抽出して、学習のまとめに使用させる。学習のまとめや新聞づくり等で自分の考えを書く機会を増やす。 ・主体的な学びをするために、児童が興味関心のもてる身近な資料を精選して提示する。資料として、プリントだけでなく、タブレットなどの ICT 活用をする。資料を配布する場合は、一人一人に用意し、自由に読み取り、メモできるようにする。 ・資料を多面的に読み取る力を身に付けるために、児童から出てきた言葉を板書で整理する。

	<p>見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</p>	
--	--	--

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能(知識及び技能の習得)</p> <p>(2) 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力(思考力・判断力・表現力等の育成)</p> <p>数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度(学びに向かう力、人間性等涵養)</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れず、自分の考えをノートに書かせて共有する場(ノート展覧会、ホワイトボードの活用など)を設ける。 ・「はじめに(まず)」、「次に」、「そして」・・・などの言葉を用いた説明の仕方を意識させる。 ・体験的な学習(長さ、大きさなど)を充実させる。 ・問題の解き方を自分で考えたり、根拠をもって伝え合ったりする機会を増やす。 ・題意を理解するために、図や表、具体物を用いて説明したり、ICTを活用したりする。 ・学んだことを生活の中で活用しようとする態度を養うために、具体的な場面を想定した問題を提示し、興味をもって主体的に問題に取り組ませるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。</p> <p>自然を愛する心情や主体的に問題解決をしようとする態度を養う。</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって観察、実験をするために、興味をもたせる導入を展開し、予想仮説を立てさせる。 ・実験結果→考察→結論を自分の言葉で表現させるようにし、理解を深めたり、実生活と結び付けて考えたりできるようにする。 ・動植物の観察では、観察の視点をもたせ、継続的に取り組むことで、生き物の成長の喜びや不思議さ面白さを実感させるようにする。 ・実験した結果を全体で共有したり、結果から分かることを自分の言葉で伝え合ったりする場面を作り、さらに考えを深められるようにする。 ・よりよい実験を行うために、実験をする際に必要な条件を考えさせ、理解したうえで道具を使用し、学習活動が充実できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<p>具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方、考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力</p> <p>(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。</p> <p>身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向性のある活動や多様な体験（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど）をさせる。 ・年間を通して1、2年生の交流を計画的に行い、友達との関わりを通して、意欲や自信を高めるようにする。 ・校外に出かけたりゲストティーチャーを招いたりして、地域について学んだり、生き物と触れ合ったり、植物を育てたりする体験を充実させる。 ・いくつかの植物を自分で選択して育てることを通して、植物の一生についての理解や違いへの理解を深めさせる。 ・植物の観察では、葉の形や手触り等、様々な表現があることを児童に教え、その中から選んでもよいし、自分で考えてもよいことを伝え、表現を工夫できるようにする。 ・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて他者と伝え合ったり、振り返ったりできるように、言葉、絵、動作、劇化など多様な方法を取り入れ、表現させる。 ・めあてを明確にし、学習の見通しをもたせる。 ・児童の実態や活動内容に応じて、ペアやグループでの学びの場を設定する。 ・家庭と連携することで、より愛着をもって植物を育てたり、家庭生活の中で自分の役割を果たしたりできるようにする。 ・児童同士や、地域との交流では、感染症防止を徹底し、グループ活動や交流活動を行えるように配慮する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解、表したい音楽表現をするために必要な技能（知識・及び技能）の習得</p> <p>(2) 音楽表現を工夫すること、音楽を味わって聴くこと（思考力・判断力・表現力等の育成）</p> <p>(3) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性、音楽に親しむ態度、豊かな情操の育成（学びに向かう力、人間性等の涵養）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用しながら6年間の学びがつながるように、見通しをもった指導計画を作成する。 ・個人、ペア、グループ、全体の様々な形態で、自他のよさを見付けながら学習を進める活動の時間を多く確保する。 ・本物の楽器を見たり、聴いたり、演奏したりする機会を取り入れる。 ・楽器を使用する事前事後に手洗いを徹底させ、感染症防止を意識して、指導する。 ・活動を記録して振り返ったり、範唱や範奏を聴いたり、資料を掲示したり、音楽を深く学ぶためにICT機器を効果的に活用する。 ・既知の知識を用いた対話を促し、知識の定着を図る。 ・共通事項を軸において、歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりに関連させながら、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解を深め、学んだことを表現に生かせるように指導する。 ・主体的に表現や鑑賞の実体験を積むことで音楽活動の楽しさを経験し、友達と一緒に演奏する喜びや多様な表現に触れる体験を積み重ねることで、一層豊かな情操を培うようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<p>造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすること（知識及び技能）</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平面、立体工作、造形遊び、鑑賞をバランスよく取り入れ、6年間の学習の見通しをもった指導計画を作成する。 ・タブレットなどのICT機器を取り入れ、自分の活動を振り返るなど、鑑賞の方法を工夫する。 ・共同してつくりだす活動を取り入れ、様々な発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気付き、表現や鑑賞を高め合えるようにする。 ・パーテーションを設置する、材料を使う前後には手洗いを徹底するなどの感染症防止対策を講じた上で、創作活動や友達との見合いなどの活動を行う。 ・児童が個性を生かして活動することができるように、表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにする。

<p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度(学びに向かう力、人間性等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで楽しむ意識をもたせながら資質・能力を育成するために、造形遊びを積極的に行う。 ・道具の扱い方については、安全面や使いやすさを児童に考えさせながら指導する。特に安全面においてはなぜそのように使うのかも細かく指導する。 ・様々な素材を扱う経験を低学年から積み重ね、表したいことに合わせて材料を選択できるようにする。
--	--

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<p>家庭</p>	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力</p> <p>(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。(知識及び技能)</p> <p>(2) 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>(3) 家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々とのかかわりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学びを促すために、2年間の学習の見通しを持った指導計画を作成する。 ・技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など、個に応じた指導の充実を図る。 ・積極的に地域コーディネーター活用し、個々への細かい支援ができるようにする。 ・ICT機器等を活用し可視化することで複雑な工程を理解しやすくする。 ・調理や製作等の手順の根拠を考えたり、調理道具の安全な使い方や衛生について考えたりするなど、実践的・体験的な活動を充実させる。 ・身に付けた知識及び技能などをより確かなものにし、日常生活に活用できるようにするために、家庭や地域との連携を図り、実習の機会を増やす。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<p>体育</p>	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力</p> <p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各領域の内容を指導する際、系統的指導が行えるよう、各学年の学習カードを共有し、よりよく改善していけるようにする。 ・学習カードを活用することで、技能のポイントを確認したり、自己の変化や課題に気付いたりすることができるようにする。 ・自己の運動の課題に応じて、練習の場を選択できるように環境を整える。 ・ICT機器を積極的に活用し、運動の様子を視覚化させ、動きのイメージをもたせ、ポイントの確認ができるようにする。 ・互いの動きを見合う時間を設け、よいところやアドバイスを伝え合うことを通して、動きのポイントに気付くことができるようにする。 ・きまりを守って安全に運動できるようにルールをしっかり理解させ、徹底できるようにする。 ・準備運動の基本的なやり方や必要性を確認する。各運動で特に使う部位を重点的に行えるようする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培うとともに、広く世界に目を向けた国際理解教育を推進し、国際人としての資質を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・4技能「聞く・話す・書く・読む」に偏りがないよう、毎時間の授業構成の工夫を図る。 ・音声を中心とした学習活動を行っていく。低学年ではアルファベット、簡単な固有名詞の発音をネイティブティーチャーの音声、視聴覚教材を活用しながら「聞く」活動、音声に慣れる活動（歌やリズム）を重点的に指導する。高学年では音声から文字化（簡単な単語の書き取り）へ進め、中学校英語に向けての橋渡しとなる活動を行う。 ・NT の話す言葉に興味をもてるように、児童にとって身近な話題でのやりとりをスモールトークなどに取り入れる。また、児童が外国の文化に興味をもてるよう、東京オリンピック・パラリンピックなども教材として活用していく。 ・活動を楽しめるよう、発音等に自信のない児童を中心に、ネイティブティーチャーと連携を図りながらティームティーチングの良さを積極的に生かして個に応じた指導を行っていく。 ・各単元のねらい、目標に沿った活動を行うことができるように、事前に担任とネイティブティーチャーで授業計画について連絡を密にとり、効果的な授業を実施できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考える学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値に迫るため、適切な教材を選び、発問を精選する。 ・登場人物の立場になって共感できるよう、教材提示を工夫する。(紙芝居、ペープサート、ICT 機器の活用など) ・友達と意見を出し合い、考えを広げたり深めたりできるように、ペアやトリオでの話し合いの場を設ける。 ・振り返りの時間を十分に確保し、児童が自分自身を見つめることができるようにする。(道徳ノート、ワークシート)

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の年間指導計画を学級活動(1)(2)(3)に分類して、計画し直し、児童の主体的な態度の育成を図る。 ・自治的なクラブ活動が行えるように、児童の意見を反映させられるように計画する。また、年度末にクラブの紹介を行い、一年間の成果を発表する場を設ける。 ・主体的な委員会活動ができるように、活動の具体例などを示し、児童の思いや願いを実現できるようにする。 ・定期的に学級会を行い、集団の一員としてより良い集団を形成することができるようにする。 ・活動の振り返りの時間を確保し、自分たちの活動を振り返り改善していけるように支援していく。 ・係活動や当番活動など、役割を明確にし、児童が主体的に活動に取り組めるように環境を整える。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力</p> <p>(1) 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。</p> <p>探究的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの児童が、興味・関心に応じた課題設定を行い、学習活動を展開していけるように、ゲストティーチャーとの体験の機会をもつ。 ・探究プロセスにおいて、児童の学習状況に応じた課題への取り組み方の事例を示し、情報の整理・分析や技術を補助する指導を行う。 ・児童が様々な情報手段（本、ICT 機器）から目的に応じて効果的に選択・活用できるように情報機器の整備を行い、学習の意欲の向上につなげる。 ・自己変容を自覚するために振り返りの場面を設定し、自らの学びを位置付けたり価値づけたりする。